

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
施 設 名	横浜能楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	19,715	(千円)
	公 演 事 業	15,030 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,685 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	企画公演「東次郎 家伝十二番」結び	令和3年5月29日(土)	狂言「文蔵」(大蔵流) 山本東次郎	目標値	365
		横浜能楽堂 本舞台	狂言「若菜」(大蔵流) 山本則重	実績値	231
2	第68回 横浜能	令和3年6月5日(土)	狂言「見物左衛門 深草祭」(和泉流) 野村萬	目標値	340
		横浜能楽堂 本舞台	能「巴」(喜多流) 中村邦生	実績値	321
3	開館25周年記念 横浜能楽堂特別公演「三老女」 ※		新型コロナウイルス感染拡大防止のため次年度に延期。	目標値	1,095
				実績値	
4	横浜能楽堂普及公演 (解説動画ネット配信事業)	令和3年11月21日(日)	狂言「鎌腹」(大蔵流) 善竹隆司	目標値	315
		横浜能楽堂 本舞台	能「鶴」(金剛流) 宇高竜成	実績値	299
5	普及公演「眠くならずに楽しめる能の名曲」	令和3年12月11日(土)	狂言「節分」(大蔵流) 山本則秀	目標値	340
		横浜能楽堂 本舞台	能「紅葉狩」(観世流) 谷本健吾	実績値	455
6	横浜能楽堂普及公演(多言語対応事業)	令和4年2月26日(土)	狂言「大般若」(和泉流) 三宅右矩	目標値	315
		横浜能楽堂 本舞台	能「黒塚」(宝生流) 高橋憲正	実績値	359
7	企画公演「極付 宮城能鳳の至芸」※		新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	目標値	365
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト①「こども狂言堂」	令和3年8月1日(日)	狂言「二人大名」山本則俊	目標値	340
		横浜能楽堂 本舞台	狂言「柿山伏」山本則孝	実績値	362
2	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト②「こども狂言ワークショップ」	令和3年8月3日(火) ～5日(木)	こども向け狂言ワークショップ 講師：山本則俊ほか	目標値	20人(発表会 来場者：100 人)
		横浜能楽堂 本舞台、第二舞台		実績値	26人
3	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト③「教育プラットフォーム」と「先生のための狂言講座」	令和3年8月1日(日) ～12月21日(火)	教育プラットフォーム：横浜市内小学校へのアウトリーチ事業。狂言鑑賞、実技体験等 先生のための狂言講座：教職員を対象とした狂言の講座。狂言「柿山伏」鑑賞、山本東次郎による解説・質疑応答	目標値	教育プラットフォーム：横浜市内小学校5校程度(実施級の児童数)、講座：50人
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	426人 講座：196人
4	普及公演「バリアフリー能」	令和4年3月19日(土)	狂言「清水」(和泉流) 井上松次郎	目標値	170人
		横浜能楽堂 本舞台	能「殺生石」(金春流) 高橋忍	実績値	168人
5	伝統文化一日体験オープンデー	令和3年8月16日(月) 横浜能楽堂本舞台他	仕舞鑑賞出演：山井綱雄(金春流)他 舞台裏見学ガイド：山井綱雄(金春流)他、横浜能楽堂職員 小鼓体験講師：岡本はる奈(観世流) 太鼓体験講師：梶谷英樹(金春流) 科学工作：神奈川県立青少年センター科学部 アートハット講師：横浜市民ギャラリー アトリエスタッフ 香りのブレンド体験協力：香老舗 松栄堂	目標値	200人
6	和のワークショップ	令和3年10月24日(日) ～令和4年2月24日(木)	「横浜能楽堂芸術監督による能楽入門講座」案内役：中村雅之(横浜能楽堂芸術監督) 「能楽師(狂言方)が案内する横浜能楽堂とワークショップ『太郎冠者、あれこれ』」山本則重・山本則秀(狂言方大蔵流)	目標値	220人
		横浜能楽堂本舞台他	横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業「日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学」講師：神奈川県立青少年センター おとな狂言ワークショップ 講師：山本則重・山本則秀(狂言方大蔵流)	実績値	210人
7	横浜能楽堂施設見学会	令和3年4月8日(木)～ 令和4年3月29日(金)	芸術監督監督のミニ講座 講師：中村雅之(横浜能楽堂芸術監督) 仕舞鑑賞出演：梅若紀彰(観世流) 小鼓体験講師：岡本はる奈(観世流) 定例施設見学日ガイド：横浜能楽堂職員	目標値	500人
		横浜能楽堂本舞台他		実績値	933人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>横浜能楽堂を所有する横浜市は「文化芸術創造都市」として4つの基本方針を挙げています。 【参考】 横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方 http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/outline/kangaekata/kangaekata.pdf</p> <p>また、横浜市は横浜能楽堂に求める役割として5つの柱を挙げています。 【参考】 横浜市能楽堂（横浜能楽堂）指定管理者業務の基準 https://www.city.yokohama.lg.jp/business/kyoso/public-facility/kaku-katsuyou/bunka/senteihyoka/nougakusentei/nougaku.files/0016_20180926.pdf</p> <p>横浜能楽堂では、これらを念頭に「古典芸能で自国の伝統に誇りを持つ 現代に生きる力をはぐくむ」というミッションを掲げています。そのミッションを達成するため、市民に横浜能楽堂および古典芸能に親しんでもらうための活動、また市内に止まらず国内外に横浜能楽堂の魅力を発信していけるようなユニークな活動を行っています。</p> <p>令和3年度は、横浜市の有形文化財としての横浜能楽堂の魅力を活かし、地域コミュニティやMICEとも連携した各種の「施設見学会」、次世代育成を目的とした「こども狂言ワークショップ」「こども狂言堂」、芸術性が高く能・狂言の振興・発展に寄与する企画公演「東次郎 家伝十二番」結びなどを感染症拡大防止をはかりながら実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため7月～9月に予定していた、開館25周年記念 横浜能楽堂特別公演「三老女」は次年度に延期、また3月企画公演「極付 宮城能鳳の至芸」については中止となりました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>【文化的意義】 コロナ禍において、券売が伸び悩み収入が想定を下回る状況下であっても、助成により、感染症対策を講じた上で公演を継続することができました。</p> <p>【社会的意義】 横浜能楽堂に求められる役割の柱の一つ「能楽等の継承・振興・発展に向けた次世代育成・愛好者の拡大」では、様々な層に芸術への参加機会をひらく、社会的包摂の視点が重要となっています。横浜能楽堂では、市内小学校に実演家を派遣する「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」、教育現場のニーズに応えた「先生のための狂言講座」など次世代育成事業を実施しています。また「バリアフリー能」では、市内の福祉団体と連携して、ソフト面・ハード面両面でのアクセシビリティの向上を毎年行っています。助成により、このような社会包摂の取組を実現させることができました。</p> <p>【経済的意義】 古典芸能の上演には、多くの出演者を必要とすること、遠方に拠点のある実演家も多いことなどから、多くの経費を要します。特に11月21日開催の普及公演では、主要な出演者が京都を起点に活躍するメンバーであったため、交通費に多く経費が必要となりましたが、助成により、能楽にあまりふれたことのない観客層も来場できるような安価な入場料で、公演鑑賞の機会を提供することができました。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【目標1】 地域コミュニティとの連携

指標1 地域コミュニティを利用した広報

事業番号2「第68回 横浜能」=1回 事業番号7「極付 宮城能鳳の至芸」=0回（公演中止）

事業番号2「第68回 横浜能」では、市内の能楽実演・愛好家団体である横浜能楽連盟と連携して事業の広報を実施しました。なお、事業番号7「極付 宮城能鳳の至芸」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止としました。

【目標2】 古典芸能の国内外への発信、来場者への多言語による鑑賞支援

指標2 多言語による字幕配信 事業番号6「普及公演（多言語対応事業）」=1回

指標3 PR動画 事業番号4「普及公演」=6回 事業番号5「眠くならずに楽しめる能の名曲」=1回

事業番号4「普及公演（解説動画ネット配信事業）」では、職員が出演者や同僚にインタビューする新たな切り口の動画を6本作成、配信しました。反響も大きく、横浜能楽堂 YouTube チャンネル、および横浜能楽堂の認知度向上にもつながりました。事業番号5「眠くならずに楽しめる能の名曲」でも動画を作成することで幅広い観客層に公演の周知をすることができ、公演は完売という結果につながりました。公演事業番号6「普及公演（多言語対応事業）」では、多言語による鑑賞支援を行い、来場した外国人にも能の理解を促す仕組みだと、好評を得ました。

【目標3】 企画性の高い事業実施による横浜能楽堂のブランド力向上

指標4 新聞掲載

事業番号3「三老女」=0回（公演延期） 事業番号7「極付 宮城能鳳の至芸」=0回（公演中止）

指標5 券売率

事業番号1「東次郎 家伝十二番結び」=49.3%（完売）、事業番号3「三老女」（公演延期）、事業番号7「極付 宮城能鳳の至芸」（公演中止）

事業番号1「東次郎 家伝十二番結び」は座席数を50%に制限して販売したため、券売率は低くなっているものの、完売をしました。平成31年度に中止した公演の節目の公演ということで話題となり、ブランド力の向上に寄与することとなりました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業番号3「三老女」は来年度に延期、事業番号7「極付 宮城能鳳の至芸」は中止としました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和3年度の事業について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、計画通りの実施ができず、一部延期、中止をいたしました。

延期事業

・事業番号3 開館25周年記念 横浜能楽堂特別公演「三老女」

■日程：第1回 令和3年7月24日(土) 14時開演

第2回 令和3年8月22日(日) 14時開演

第3回 令和3年9月25日(土) 14時開演

→来年度へ延期

中止事業

・事業番号7 企画公演「極付 宮城能鳳の至芸」

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の感染状況や政府方針により、客席数を減らしながら公演を実施、また、体調のすぐれないお客様や来場に不安のあるお客様のキャンセルを引き続き受付けたため、一部の公演においては、収入が当初の予定より減少しました。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【劇場・音楽堂等の資源】

◆芸術監督 中村雅之

横浜能楽堂では、平成 31 年に中村雅之が芸術監督に就任。幅広い知識や海外の芸術団体とのネットワークを活かし、横浜能楽堂での各公演のプロデュース、講演活動の他、吉祥寺薪能など外部での解説、明治大学兼任講師、にっぽん文楽プロデューサーなどを勤め、「野村萬斎—なぜ彼は一人勝ちなのか—」（新潮新書刊）、和菓子の芸心（東京新聞にて月 1 回連載）などの執筆活動を行っています。

令和 3 年度は、「普及公演『眠くならずに楽しめる能の名曲』」のプロデュースを行いました。狂言方大蔵流の山本則秀、シテ方親世流の谷本健吾ら若手能楽師を起用し、狂言「節分」、能「紅葉狩」と鬼が登場する 2 曲を上演。公演冒頭には「怖い鬼 弱気な鬼」と題してトークを行い、能・狂言で描かれる鬼の違いや上演曲の内容について分かりやすく解説。また本公演の関連講座として 10 月 24 日（日）には「横浜能楽堂芸術監督による能楽入門講座」を開催。「能を演じる場の変遷」というテーマで、午前・午後の 2 回行い、どちらも満席となりました。参加者からは「本で得た知識が歴史的に説明していただいて、理解できたこと、さらに深まったことなどたくさんありました。能への関心が強くなりました」「能の歴史がよくわかりました。もっとお伺いしたいと思いました」といった意見が聞かれました。

◆事業担当者

芸術監督のもと、4 名の事業担当が公演の制作を行っており、内 2 名は専門的な知識を持ったプロデューサーとして、公演企画立案にも携わっています。令和 3 年度は、11 月 26 日に開催した普及公演の曲目や出演者の選定を行ったほか、上演曲にまつわるトークや出演者へのインタビューを行った動画 6 本を作成し、YouTube で公開しました。来場者のみならず、能・狂言に興味を持っている方へ、情報を発信しました。

◆横浜能楽堂本舞台

横浜能楽堂の本舞台は明治 8 年に東京上根岸の前田齊泰邸に建てられた、現存する関東最古の能舞台で、横浜市の有形文化財にも指定されています。その魅力を最大限に活用すべく、毎月施設見学会をはじめ、「日本画」や「ミニ門松づくり」といった和のワークショップとともに舞台見学を行う事業を開催しました。市民の皆さまに横浜能楽堂の舞台の歴史や能舞台の魅力を伝える活動を行いました。



眠くならずに楽しめる能の名曲
(芸術監督によるトーク)



プロデューサーによる能「鶴」解説動画
(横浜能楽堂 YouTube チャンネルより)

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

◆企画公演「東次郎家伝十二番 結び」

平成31年度に、狂言方大蔵流・山本東次郎家に伝わる芸の中から十二番を選び、東次郎自らが毎月演じる公演を企画しました。しかし、3月に予定していた、連続公演最後の第12回が、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となり、その開催を求める声が市民から多く寄せられました。その希望に応え、企画公演「東次郎家伝十二番」の締めくくりとして、狂言「文蔵」、「若菜」を上演しました。特に「文蔵」は、山本東次郎の語りを存分に堪能することのできる一曲で、来場者からは「1年ごしで最終回が見られて良かった。」「心待ちにしておりました。その期待以上の内容でした。」との声が聞かれ、公演アンケートでもすべての回答者が「満足」「やや満足」と回答。山本東次郎の芸を通じ、狂言の魅力を多くの方に発信した公演となりました。

◆普及公演（多言語対応事業）

二か国語による上演時字幕配信付きの公演を実施しました。能・狂言は「言葉が分かりにくい」「どんな場面をやっているのか分かりにくい」との声が聞かれ、初心者が鑑賞する上でのネックとなっています。そこで、上演時に舞台進行に合わせて、スマートホンやタブレットに解説字幕を配信する公演を実施しました。当日のアンケートでは回答者の50%を超える方が字幕解説を利用と回答。「能は、言葉がわかりにくいので、解説があることで理解が増した。情景や身上など深く理解できて楽しかった」などの声が聞かれました。また、市内インターナショナルスクールの関係者をはじめ、30名を超える外国にゆかりのある方が来場。市民や外国人に能・狂言をより深く知っていただく機会を提供することが出来ました。

◆先生のための狂言講座

6年生国語の教科書（光村図書）に、狂言「柿山伏」が掲載されていることから、狂言の実演鑑賞、講座等のニーズが教育現場において高まっています。そこで市内の教員、教育関係者を対象とし、狂言「柿山伏」の実演鑑賞の後、教科書掲載の随筆「柿山伏について」の著者でもある人間国宝・山本東次郎が解説を行う、授業で子どもたちに狂言の面白さ、伝統文化の奥深さを伝えるためのヒントになるような講座を開催しました。予定参加者数50名のところ、196名の参加があり、教員たちの本講座へのニーズの高さがうかがえました。参加者からは「今まで狂言について何もわからないまま指導することに心苦しさを感じていましたが、狂言の“心”に触れることができ、非常に感銘を受けました」など好評な声が聞かれ、市民への狂言の振興につながりました。

◆こども狂言ワークショップ

小中学生を対象とした狂言のワークショップを「入門編」「卒業編」「発表会」という一連の流れで開催しました。「入門編」では、26名が参加。参加者は公演鑑賞のほか、狂言の所作や作品の一場面の稽古を行いました。ワークショップを通じて、日本の伝統芸能に触れるだけでなく、正座やお辞儀など現代の子どもたちが家庭等で体験することの少なくなった礼儀作法を身に付けることができ、保護者からも好評でした。「卒業編」には、例年に比べて非常に多い12名が参加し、狂言への興味の高まりを感じる事が出来ました。参加者は10回の稽古を通して狂言1曲を子どもたちだけで上演できるようになり、その成果を「発表会」で披露。狂言へのさらなる理解を深められる機会を提供することが出来ました。

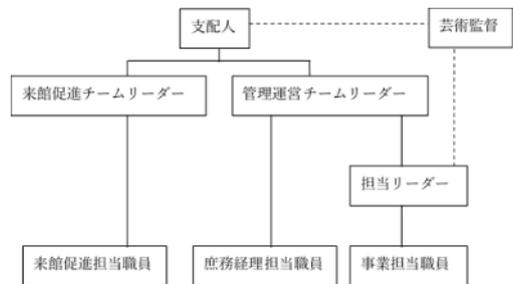
(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【人材面】

平成 31 年度より、全国の能楽堂でも初めてとなる芸術監督のポストを新設。公演の芸術面・企画面での統括を専門的に行うことでより質の高い公演実施が可能となっています。また来館促進チームでは、来館促進を目的とした事業に力を入れ、施設見学会やワークショップ等、公演以外の能楽堂の魅力をアピールする事業を行いました。公演制作は、令和 3 年度はプロデューサー 2 名を含む 4 名が担当。企画立案や制作を行うことで事業全体を円滑に実施しています。プロデューサーは横浜市芸術文化振興財団の実施する専門人材研修（令和 2 年度は 2 回実施）に参加しスキルアップを図るほか、MBO (Management By Object) 制度を用いて担当事業の目標を定め、年度末に振り返りを行うことで、今後の事業運営に活かしていくシステムが構築されています。また当財団においても人事異動はありますが、専門性を持つプロデューサーは平均 9 年、他の担当職員は 4 年横浜能楽堂で勤務しており、安定した運営が可能となっています。また、古典芸能に関する専門知識を有する職員について本人の資質を踏まえて契約職員から一般職員に登用するなど、中長期的な視点に基づいた人事施策を実施しています。



横浜能楽堂組織図

【財務面】

横浜能楽堂の主な収益基盤は、「助成金収入」の他、「横浜市指定管理料収入」「自主事業収入（入場料収入等）」「施設利用料金収入」の 3 項目であり、この 4 項目となります。令和 3 年度においても、新型コロナウイルス感染症は、自主事業収入、および施設利用料金収入に影響を及ぼしました。その中でも、延期・中止公演を除く各公演事業においては、入場率（設定席数を分母とする）は目標を上回り、感染症対策を行いながらも自主事業収入の確保に努めました。

【ネットワーク】

横浜能楽堂の建つ紅葉ヶ丘近辺は、神奈川県立音楽堂、神奈川県立図書館、神奈川県立青少年センター、横浜市民ギャラリーと 5 つの公共施設が集まる地域です。互いの施設の管理運営についての情報交換を平成 30 年度より始め、令和 3 年度は「紅葉ヶ丘まいらん」として 5 館連携イベントを開催してきました。令和 4 年 1 月 23 日（日）には、横浜・紅葉ヶ丘まいらん連携事業として、同日に 5 館で様々な催しを開催し、横浜能楽堂では、「日本全国能楽キャラバン！事前講座・横浜能楽堂特別見学会」を実施しました。そのほか、横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業として、12 月に「日本画（板絵）体験と横浜能楽堂見学」と「ミニ門松づくりと横浜能楽堂見学」を開催しました。一体的な広報や回遊性を高め、各施設の認知度を向上させる事業を実施するほか、危機管理の情報共有等で連携を図っています。